

『日本手話学会第44回大会予稿集』執筆ガイドライン

原稿仕様について

手話 花子^{1,*} 指文字 太郎²

¹日本手話学会理事会 ²日本手話学会事務局 * Corresponding Author

「『日本手話学会第〇回予稿集』執筆ガイドライン」（2018年3月31日改訂）は『日本手話学会大会予稿集』の仕様を定めたものです。日本手話学会の学際的性格により、予稿の仕様は絶対的なものとはしませんが、大会実行委員会の負担を緩和するためにも、予稿執筆者一同のご理解およびご協力のほどお願い申し上げます。

1. 原稿の分量および仕様

MS Word の脚注機能を用いる。

1.1. 使用ソフト

原稿は MS Word (docx) を用いる。

2.2. 段組および行間

表題、副題、氏名、所属、要旨は、1 段組（行間 1 行）で記す。ただし、表題のみ行間は 1.15 行とする。

1.2. 分量上限

原稿の分量上限は 2 ページとする。

2.3. 表題および副題

表題は左詰め、HGP 創英角ゴシック UB、左詰め、18 ポイントで記す（英語の場合は Arial 太字）。副題がある場合は、表題の次の行に左詰め、游ゴシック、左詰め、12 ポイントで記す（英語の場合は Arial）。表題（ないし副題）の次に空白の 1 行を加える。

1.3. サイズおよび余白

原稿のサイズは A4 とする。原稿の余白は、上 25 mm、下 25 mm、左 25 mm、右 25 mm とする。ヘッダおよびフッタの設定は下記の通りとする。(1) ヘッダ：端からの距離 10 mm、10 ポイント、游明朝、中央揃え。(2) フッタ：端からの距離 10 mm、10 ポイント、Times New Roman、中央揃え。

2.4. 著者氏名および所属

著者氏名は左詰め、游ゴシック、12 ポイントで記す（欧文の場合は Arial）。姓と名の間は半角空けにする。所属は左詰め、游明朝、10 ポイントで記す（欧文の場合は Times New Roman）。所属の次に空白の 1 行を加える。

1.4. 使用しない機能

游明朝および游ゴシックを用いるときは、「段落」「インデントと行間隔」にある「1 ページの行数を指定時に文字を行グリッド線にあわせる」のチェックをはずす。また、下記の機能は使用しないこと：(1) インデントの自動設定機能使用、(2) 箇条書きの自動設定機能、(3) 段落番号の自動設定機能。

2.5. 連名および所属表記に関する注意点

連名の場合、氏名の間は全角 1 字空けにする。ラテン文字表記同士の間の場合、2 文字空けにする。連名の所属が異なる場合、氏名の語尾にアラビア数字、上付きで記し、所属を記した行でそれぞれの所属の語頭にアラビア数字を記す。連名の場合、Corresponding Author は Corresponding

2. 原稿の仕様

2.1. 構成

予稿の原稿は表題、副題、執筆者氏名、所属、要旨、本文、参考文献の順に記す。注（脚注）は

Author である氏名の語尾に「*」上付きで記し、所属を記した行の最後に「* Corresponding Author」と記す。

2.6. 要旨

要旨は日本語の場合は両端揃え、游明朝、10ポイントで記す(英語の場合は Times New Roman)。要旨の分量上限は、5行とする。要旨の次に空白の1行を加える。

2.7. 段組および行間

本文および参考文献は2段組で記す。

2.8. 本文

本文は両端揃え、游明朝、10ポイント(ないし9ポイント)で記す(英語の場合は Times New Roman)。ただし、游明朝は MS 明朝、または MSP 明朝に替えることができる。

2.9. 句読点

句読点は原則として「、」と「。」(全角)を用いる。ただし、日欧混在文等においては適宜、「,」ないし「.」(全角)を用いることができる(英語の場合は [,] [.])。

2.10. 章名および項目見出し

本文の章名は両端揃え、游ゴシック、10ポイント(または游ゴシック Medium、10.5ポイント)、を用いる(英語の場合は Arial)。章より小さな項目の見出しは両端揃え、游ゴシック、10ポイントで記す(欧文の場合は Arial)。章より小さな項目の見出しの次に空白の行は置かないものとする。

2.11. 文献関連情報

文献関連情報は本文中に記す。記すときは、原則として著者姓(西暦刊行年: 該当ページ)の形式を用いる。(例) 山田(1930: 135)は～(例)～(Jakobson 1942: 54-58)。

2.12. 脚注

脚注は行間1行、両端揃え、游明朝、8ポイント、一字ぶら下げで記す。¹

2.13. 参考文献

本文(あるいは文末注)の次に空白の1行を加える。参考文献の章名「参考文献」(英語の場合は [References])を両端揃え、游ゴシック、10ポイントで記す(英語の場合は Arial)。参考文献は両端揃え、ぶら下げ1字、游明朝、9ポイントで記す。参考文献は著者の姓のローマ字順に記す。書誌情報の記述形式は『手話学研究』執筆ガイドラインに準じる。

3. 図

図は本文中の適当なところに置き、図それぞれに一連番号、題、および説明文をつける。一連番号および題は図の下に、両端揃え、游ゴシック、10ポイントで記す(英語の場合は Arial)。説明文は題に1字空けて続け、両端揃え、游明朝、10ポイントで記す。図はカラー、白黒のいずれでもさしつかえはないものとする。



図1 日本手話学会のロゴ

4. 表

表は本文中の適当なところに置き、表それぞれに一連番号、題、説明文をつける。一連番号および題は表の上に、両端揃え、游ゴシック、10ポイントで記す(英語の場合は Arial)。説明文は、表の下に両端揃え、游明朝、10ポイントで記す(英語の場合は Times New Roman)。

5. 謝辞

謝辞は本文と参考文献の間に、参考文献の章と同じように記す。

1 本文中に加える注の位置はアラビア数字で記し、括弧は加えないものとする。